



TITLE:

英國特惠税問題

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 英國特惠税問題. 經濟論叢 1917, 5(1): 85-109

ISSUE DATE:

1917-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127231>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第五卷 第一號

大正六年七月一日發行

論說

生物進化論ノ誤解

理學士 川村多實二

露國ノ資本主義ト最近ノ大革命

米田庄太郎

飛脚ノ變遷

法學士 本庄榮治郎

現代の保險ノ成立

法學士 小島昌太郎

時事問題

英國特惠稅問題

法學博士 戸田 海市

會社使
用人ノ慰勞賞與金ニ對スル所得稅賦課問題

法學博士 神戸 正雄

雜錄

經濟雜誌

法學博士 田島 錦治

所謂「Welfare Work」ニ就キテ

山本美越乃

群馬縣ノ製絲業

法學士 河田 嗣郎

基礎社會ノ發達ニ就イテ

文學士 高田 保馬

國民經濟講話及貧乏物語

瀧本 誠一

時事問題

英國特惠稅問題

戸田 海市

一 特惠稅設定ノ原因

英帝國軍事內閣會議ハ今回政治上及經濟上ニ於テ母國ト諸植民地トノ結束ヲ固クスル爲メニ種々ノ事項ヲ決議シ、就中其間ニ汎ク特惠關稅ノ制度ヲ設クルコトヲ決議シタト云フコトアル。此決議ハ更ニ母國及各植民地ニ於テ夫レ夫レ議會ノ同意ヲ得テ有效トナルヘキモノテアルガ、戰爭以來ノ英國及其植民地ノ輿論ノ傾向ヨリ察スレハ、此ノ帝國主義的ノ結束、就中特惠稅制度ノ新設擴張ノ成功スル見込ハ頗フル大デアル。世界ニ於ケル英國ノ商工業上ノ優越ノ地位カ漸次後進國就中獨逸ノ爲メニ侵略セラレ、加フルニ獨逸ノ海軍及海運業ノ急速ナル發達ニ由テ英國ノ海上支配權カ薄弱トナリ、之カ爲メ母國モ植民地モ共ニ不安ヲ感スルニ及ヒテ帝國主義的ノ思想カ強マリ、之ヲ實際ノ運動トシタ所ノ故ちねんば一れんハ生存中ニ其目的ノ一部ヲ達シタニ過ギナカ

ツタ、即チ主要ノ自治植民地ヨリ母國ニ對シ片務的ニ特惠稅ノ制度ヲ設クルニ止マツタガ、今次ノ戰爭ハ英帝國ヲ維持スル爲メニ政治上及經濟上母國ト植民地トノ鞏固ナル結束ノ必要ナルコトヲ痛切ニ感セシムルニ至ツタ。

最初英帝國ノ經濟上ノ結束ヲ固クスル爲メニハ母國ト植民地ト相互ニ特惠ヲ交換スルコトヲ要シ、此目的ノ爲メニハ獨リ植民地カ保護貿易主義ヲ採リテ一般輸入品ニ課稅スルト同時ニ、母國ノ輸入ニ對シテ課稅減免ノ特惠ヲ與ヘルコトヲ要スルノミナラス、母國モ亦保護貿易主義ヲ採リ、就中植民地ヨリノ輸入上主要ノ地位ヲ占ムル農作物ニ付テ一般ニ輸入稅ヲ課スルト同時ニ、植民地ノ輸入ニ對シテ之ヲ減免スルノ特惠ヲ與フルノ必要アリト考ヘラレタノテアルガ、其後主ナル自治植民地ハ母國ヨリ何等ノ特惠ヲ與ヘラレサルニ係ハラス、片務的ニ母國ノ輸入ニ特惠ヲ與フルコトトナツタ。這ハ固ヨリ植民地カ母國ヲシテ列國トノ競爭上有利ノ地位ニ立タシメントスル母國愛護ノ精神ニモ原因シテ居ル。特ニ母國ノ勢力ガ獨逸ノ勃興ニ由テ從來ノ如ク優越ナラサルコトカ、植民地ヲシテ不安ヲ感セシメタノミナラス、濠洲新西蘭ノ如キハ我日本ノ海上勢力ノ發展ニ由テ不安ヲ感シ、又加奈多ハ米國ノ勢力ノ膨脹ニ由テ不安ヲ感シ、之カ爲メ各植民地ハ自己ノ保護者タル母國ヲシテ成ルヘク有利ノ地位ニ立タシムルノ必要ヲ覺ツタ爲メテアルガ、併シ此片務的特惠稅ハ植民地ノ自發的計畫ニ成ツタモノデアル丈ケニ、植民地ニ苦痛ヲ與フルコト少ナキト

同時ニ、母國ニ取ツテハ充分ノ満足ヲ與ヘタト云フヲ得ナカツタ。

自治植民地ノ中加奈多濠洲ノ如キハ兼テヨリ保護貿易ノ思想カ強ク、且ツ政治上聯邦組織ヲ採リテ中央政府カ内地稅ヲ徵收スルコト難キ爲メ、關稅ニ由テ財政ヲ維持スルノ必要カ多ク、之カ爲メ其輸入稅ハ本來頗フル高率テアツタ。此事タル英國ノ輸出ニ取ツテ大ナル障礙テアルカラ、母國ハ成ルヘク之ヲ輕減セシメントシタガ、植民地ハ母國品ニ對スル輸入稅ヲ從來ノ儘トシテ、他ノ諸外國ノ輸入ニ對スル稅率ヲ更ニ引上ケ、以テ或程度ニ歲入増加及國產保護ノ目的ヲ達スルト同時ニ、母國ノ輸入ニハ負擔ヲ輕減シナイ代リニ特惠ヲ與ヘテ競爭上ノ利益ヲ得セシムルコトトシタ。其結果英國ノ對植民地貿易ノ發展ヲ利益シタコトカ少ナクナイガ、英國ノ本來ノ希望ヲ云ヘハ植民地カ更ニ大ニ英國品ニ對シ稅率ヲ引下ケテ自由貿易ニ近キ狀態ニ達スルコトテアル。併シ此事タル植民地ノ財政及產業保護ノ目的ニ反スルノミナラス、從來母國カ依然自由貿易主義ヲ守ルノ結果トシテ、植民地ニハ母國ヨリ何等ノ特惠ヲ與ヘルコトカ出來ナイ。從ツテ英國ハ貿易政策上自主ノ權限ヲ有スル自治植民地ニ對シテ過大ノ要求ヲ爲スコトカ困難テアツタ。是レ英國モ保護貿易主義ヲ探ツテ植民地ノ輸入ニ特惠ヲ與ヘ、之ニ由テ更ニ植民地ヨリ有利ノ特惠ヲ得ントスル考ヘノ起ル所以テアル。

二 特惠稅ノ構成

今後英國カ保護貿易ニ變スヘキヤ否ヤハ尙ホ不明テアル。一般企業家及現政府ハ著シク保護主義ニ傾イテ居ルヤウテアリ、特ニ巴里決議ニ由テ聯合國間ニ經濟同盟ヲ組織シ、以テ英國ニ對シ最も有力ノ競争ヲ爲ス所ノ獨逸品ヲ英領内ヨリ驅逐スルコトトシタノハ、保護主義ノ一方法ニ外ナラヌノテアルガ、此外ニ汎ク輸入税ヲ設クル所ノ普通ノ保護貿易策ヲ採ルコトニ付テハ今尙ホ有力ナル反對カアリ、特ニ勞働者階級ノ向背モ不明テアル。假令ヘ英國カ保護主義ニ一致スルトシテモ、其保護ハ主トシテ工業ニ關スルモノテアルニ反シ、植民地ニ特惠ヲ與ヘントスレハ農產物ニ輸入税ヲ設ケテハナラヌ。然ルニ此ノ如キ農業保護ニ付テハ勞働者側ニ大ナル反對アルノミナラス、商工業モ一般ニ之ヲ喜ハサル傾カアリ、又戰爭上非常ノ援助ヲ爲シツツアル米國ノ利益ヲ害スルコトモ少ナクナイ。成ルホト英國ハ戰時ノ食糧供給ノ不安ヲ除クカ爲メ目下盛ンニ其國內生産ヲ獎勵シ、特ニ農民ニ對シテ今後三年間小麥ノ價格ヲ保證スルコトニ由リ其國內生産ヲ獎勵シツツアルガ、這ハ戰爭カ意外ニ繼續スルノ虞アルト同時ニ、農業ヲ營ムニハ相當ナ資本ノ固定ヲ必要トシ、從ツテ少クトモ三年位ノ間ハ其生産者ニ收益ノ保證ヲ與ヘルコトヲ要スルカ爲メテアツテ、必シモ今後穀物輸入税ヲ設ケテ農業保護ヲ行フコトヲ豫定スルモノテハナイ。若シ國內農業ノ保護ノ程度ヲ強クシ、戰時ニ臨ンテ食物ノ重要部分ヲ自給シ得ルカ如キ狀態ニ達セントスレハ、植民地ノ農產物ニ對シテ多大ノ特惠ヲ與ヘ得サルコトトナルノテアル。

經濟同盟ニ關スル巴里決議ノ中ニハ戰後ノ緊急措置トシテ、聯合國ノ中此同盟ニ加入シタ爲メニ其生産物ノ販路ヲ失フテ苦シムモノカアレハ、他ノ同盟國カ之ニ對シテ代償的販路ヲ供給スルノ條項カアル。此條項ハ主トシテ同盟加入ノ爲メニ露國カ其農産物ノ重要市場タル獨逸ニ於テ販路ヲ失フ場合ニハ、農産物ノ大需用國タル英國カ之ヲ受入レルコトヲ意味シ、此條項ニ由リ露國ヲシテ安シシテ同盟ニ加入セシメントシタノテアルガ、巨額ナル露國ノ輸出農産物ヲ獨逸ニ代ツテ受入レルコトトスレハ、植民地ノ農産物ヲ特ニ優遇スルコトモ困難アテル。只タ此經濟同盟ノ決議ノ中戰後ニ關スル事項ハ獨逸カ勝利ヲ得タ場合ニハ實行シ得サルノミナラス、最近ノ露國ノ政變ノ經過如何ニ由テハ、此決議ハ露國ニ關シテ效力ヲ失フコトトナリ、從ツテ英國カ植民地ニ特惠ヲ與フルニ付キ、此決議ハ重大ノ障礙ヲ爲サスコトトナルカモ知レヌガ、併シ以上論スル所ニ由テ母國カ植民地ニ特惠ヲ與ヘ得ル程度ハ此戰爭ニ由テ大ニ増加シタトハ云ハレナイ。

今次ノ戰爭ハ植民地ヲシテ大ニ英帝國維持ニ關スル責任心ヲ強カラシメ、又之ヲ維持スルニ付テハ母國ヲシテ列國トノ競争上有利ノ地位ニ立タシムルノ必要ヲ感セシメタヤウテアルガ、併シ平時ニ於テ植民地カ自己ノ財政經濟上ノ重大ノ不利ヲ忍ヒツツ母國ニ大ナル利益ヲ與ヘルテアラウトハ考ヘラレナイ。故ニ今後母國カ植民地ニ對シテ或程度ノ特惠ヲ與ヘ、以テ母國植民地間ノ特惠稅制度ヲ相互的ノモノニ改メルトシテモ、植民地カ之ニ對シ母國輸入品ヲ無稅トスルカ如キ大

ナル特惠ヲ供スルコトハアルマイ。植民地ノ輸入貿易ニ付テハ母國品カ重要ノ部分ヲ占ムル故之ニ對シ無稅又ハ非常ノ低稅トスルトキハ、關稅收入ニ重キヲ置ク所ノ植民地ノ財政カ困難ニ陥ラサルヲ得ナイ。今次ノ戰爭ニ付テハ植民地ニモ大ナル負擔ヲ生シタ故、戰後ハ著シク増稅ヲ爲スコトヲ必要トスルテアラウガ、其方法トシテハ輸入稅增加ヲ最モ便利トスル。故ニ今後植民地ノ母國ニ對スル特惠制度ノ變更ハ恐ラク母國品ニ對スル輸入稅ヲ大體現狀ニ據置テ、他ノ外國輸入品ノ稅率ヲ引上クルコトニ由リ特惠ノ程度ヲ大ニスルコトトナルテアラウ。

戰後ニ於ケル英帝國ノ特惠稅制度ハ上述ノ如ク母國ニ於テモ保護主義ヲ採リ、植民地輸入品ヲ優遇スルコトニ由テ特惠ヲ相互のノモノトスルコト、及植民地ノ現行特惠稅ハ更ニ外國品ノ輸入稅ヲ引上クルコトニ由リ母國ニ對スル特惠ノ程度ヲ大ニスルコトノ外ニ、從來ノ如ク特惠稅制度ヲ數個ノ自治植民地ニ限ラス、或ルヘク汎ク英領全般ニ及ホシ、特ニ印度ニ於テモ此制度ヲ新設シ、又此制度ハ獨リ母國ト植民地トノ間ニ設クルノミナラス、植民地相互ノ間ニモ之ヲ設定スル場合ヲ見ルニ至ルテアラウ。只タ植民地ハ一般ニ經濟カ幼稚テアツテ、先進國就中母國ニ原料食物ヲ供給シテ工業品ヲ之レヨリ輸入スル狀態ニ在ル故、植民地相互ノ間ノ貿易ハ重要テナク、從ツテ其間ニ特惠稅制度ヲ設クルノ必要ハ例外的ニ存在スルニ過キナイガ、印度ニ於テ此制度ヲ新設スルコトハ母國ニ對シテ大ナル利益ヲ與フルト同時ニ、我國ノ對印貿易ハ之カ爲メ少ナカラサル打擊

ヲ受ケル危險カアル。

印度カ英國ニ輸入スル貨物ハ食物原料品ヲ主トスル故、英國ハ之ニ對シテ特ニ多大ノ特惠ヲ與フルノ方法ヲ講スルノ困難ナルハ明カテアル。故ニ印度カ英國品ニ特惠ヲ與フル代償トシテハ、印度品カ英國ニ於テ特惠ヲ得ルコトヲ主トセス、寧ロ政治上ノ權限ヲ擴メテ其地位ヲ自治植民地ニ近カシムルコトテアラウ。印度ノ自主權獲得ハ兼テヨリ土人ノ熱望スル所テアルガ、更ニ經濟上ニ於テモ自主權ノ獲得ハ土人及印度ニ在留シテ工業ニ從事セル英人自身ノ要求スル所テアル。從來經濟政策上英國カ印度ヲ待遇スルコトハ、自治植民地ト異ツテ頗フル酷薄テアリ、特ニ印度市場ヲ得意トスル所ノ英國ノ工業ノ利益ヲ保護スル爲メ印度自身ニ工業ヲ起スコトヲ妨ケントシ、例ヘハ財政ノ必要ヨリ印度ニ於テ輸入税ヲ設クルコトヲ認ムルモ、其税率ヲ成ルヘク低カラシムルノミナラス、同時ニ印度自身ノ工業ニ對シテ輸入税ト同率ノ生産税ヲ設ケシメ、以テ其輸入税ヲシテ保護的效果ヲ生セサラシメントシタノテアルガ、印度ニ於テモ低級ノ工場工業カ發達ノ氣運ニ向フテ居ルカラ、英國ノ此種ノ工業抑壓策ハ印度實業界ニ大ナル苦痛ヲ感セシメ、之カ爲メ印度ノ有産者階級ノ間ニ於テモ英國ニ對スル反感ヲ強メルノ結果ヲ生シタ。

元來英國ノ工業ハ高級品ノ生産輸出ヲ主トスルニ反シ、印度ニ於テ勃興セントスル工業ハ低級品ノ生産ヲ主トスルモノテアル。故ニ印度ニ輸入税ヲ設ケテ其工業ヲ發達セシムルコトハ必シモ英

國ノ工業ニ大ナル打撃ヲ加フルモノテナク、却ツテ印度ノ低級工業ノ勃興ヲ抑ヘルコトニ由リ、低級品ノ生産輸出ヲ有利ニ行ヒ得ル所ノ他ノ後進國ノ印度市場ニ於ケル發展ヲ助クルノ結果トナル。我國ノ如キモ對印貿易ニ付テハ或程度マテ英國ノ印度工業抑壓策ニ由テ利益ヲ受ケテ居タル。本年ニ入リテ英國ハ印度ノ地位ヲ向上スルノ必要ニ迫ラレテ、印度カ内地生産稅ヲ伴ハサル輸入稅增加ヲ行フコトヲ認ムルニ至ツタガ、此増稅ニ際シテハ未タ英國ニ對スル特惠稅ヲ同時ニ實行スルニ至ラナカツタ。然ルニ今回ノ英帝國軍事內閣ノ決議ハ印度ニモ特惠稅制度ヲ新設セントスルモノナルハ多ク疑ヲ挾ムノ餘地カナイヤウテアルガ、若シ之ヲ新設スルコトトスレハ恐ラク英國品ニ對スル輸入稅ヲ現在ノ儘トシテ、他ノ外國品ニ對スル稅率ヲ更ニ引上クルコトトナルテアラウ。此方法ニ由レハ印度ノ年來ノ産業保護ノ要求ヲ充タシ、且ツ其財政ニモ相當ノ利益ヲ得セシムルト同時ニ、英國ハ高級品ニ付テ印度ノ市場ヲ獨占スルノ利益ヲ得テ、雙方ノ利益ノ調和ヲ見ルコトカ出來ル。

三 特惠稅ノ我國ニ及ホス影響

英帝國軍事內閣ノ決議ニ現ヘレタ如ク英領全體ノ結束ヲ固クスルコトハ所謂帝國主義ノ實行テアルガ、其性質ハ攻撃侵略のナルヨリモ寧ロ排外防禦的テアル。即チ英人カ其ノ世界の大領土ヲ從

來ノ如ク開放シテ諸外國ニ之ヲ利用セシムルコトヲ制限シテ、英人自カラ獨占のニ之ヲ利用セントスルコトヲ意味スル。勿論英國ノ植民地ハ從來異人種ノ移住ニ付テハ大ニ排外のテアツタガ、白人ノ移住營業ノ爲メニハ汎ク之ヲ開放シ、又其貿易ニ付テモ自治植民地カ片務のノ特惠稅ヲ設ケタ外ニハ一般ニ開放のテアツタ。然ルニ今後ハ英人カ其領土ヲ一層閉鎖的ニシテ自國ノ爲メニ之ヲ利用セントスルノヲアル。英人ノ此ノ如キ考ヲ起スニ至ツタノハ、後進國ノ進歩ニ由テ自己ノ優越ナル地位ノ漸々低下スルコトヲ自覺シタ爲メテアリ、特ニ後進國中ノ獨逸カ政治上經濟上長足ノ進歩ヲ爲セルノミナラス、其ノ對外經濟上ノ活動ヲ直接ニ軍國主義ノ用ニ供セントスルカ如キ惡辣ノ侵略策ヲ採ツテ、英國ノ地位ヲ危險ニ陷ラシメタ事實ガ、今次ノ戰爭ニ由リ總テノ英人ノ前ニ暴露セラレタ爲メテアル。併シ乍ラ英國ノ此帝國主義ハ假令ヘ防禦的ノ性質ヲ有スルトシテモ、其領土人口市場ノ廣大ナルカ爲メ、之ニ付テ排外閉鎖的ノ態度ヲ探ルコトハ世界人類ニ取ツテ大ナル不利ヲ生セサルヲ得ナイ。個人間ニ於テモ幾億ノ財ヲ有スル富豪カ如何ニ其財産ヲ管理處分スルヤハ重大ノ社會問題ヲ生スルカ如ク、世界ノ面積ノ大ナル部分ヲ占有スル所ノ英人カ之ヲ閉鎖的ニ利用セントスルコトハ、世界諸國ノ利益ト一致スルヲ得ナイ。特ニ英人カ若シ其帝國主義ヲ行フニ方リ、英國ヲ助ケテ侵略的ノ獨逸ヲ挫クコトニ努力シツツアル所ノ我國其他ノ聯合諸國ノ利益ヲ害シテ顧ミサルカ如キ態度ヲ探ルトキハ、英人ハ大ナル背信ノ責ヲ負ハサルヲ

得ナイ。是レ英帝國軍事内閣ノ決議ニモ其政策ヲ實行スルニ方ツテハ聯合諸國ノ利益ヲ考慮スヘキコトヲ一條項トシテ掲ケタ所以テアルガ、吾人ハ之ヲ考慮スルコトヲ英人ニ一任シテ置クコトヲ得ナイ。直接ニ獨逸ヨリ攻撃ヲ受ケサルニ係ハラス、自カラ進ンテ英國ヲ援助スルノ危險ヲ負擔シ、特ニ日英同盟條約ニ由リテ英國ノ領土ヲ保護スルノ責ヲ負擔スル所ノ吾人ハ、吾人ノ正當ノ利益ノ何タルヤヲ明ニシテ英人ノ考慮ヲ求ムル道德上ノ權利ヲ有スル。

植民地ヨリ英國ニ輸入スル貨物ハ食物原料品ヲ主トシテ、我國ノ對英輸出品トハ殆ント競争關係ヲ有シナイ。故ニ今後英國カ植民地ノ輸入ニ對シテ特惠ヲ與フルコトトシテモ、我國ノ利益ハ害セラレナイ。又植民地相互ノ間ニ特惠税カ設ケラレテモ我國ハ何等ノ不利ヲ蒙ムラナイ。我國ノ利害ニ重大ノ關係アルハ植民地ニ於ケル特惠税ノ増加及新設テアツテ、特ニ我工業品ノ輸出ニ對シ從來ヨリ有望ナリシ印度ノ特惠税新設ト、戰爭以來大ニ我工業品ノ販路ヲ開拓シタ濠洲ノ特惠税増加トハ大ナル打撃テアル。元來特惠税ノ制度ハ獨リ輸入税ニ限ラレス、輸出税ニ付テモ等シク設定シ得ル所テアツテ、兼テヨリ印度ハ我紡績業ニ對抗スル爲メニ綿花輸出税ノ設定ヲ希望シ、又濠洲モ近來我國ノとつぶ生産ノ發達ヲ抑ヘル爲メニ羊毛輸出税ノ設定ヲ欲スルヤウテアルガ、此等ノ輸出税設定ニ際シ母國ニ對スル輸出ニ限ツテ之ヲ無税トスルカ如キ特惠税制度ヲ設ケルコトモ出來ナイテハナイ。只タ聯合國經濟同盟ニ關スル巴里決議ノ中ニ聯合國ハ其天然資源ヲ相互

ニ利用セシムヘシトノ條項カアツテ、輸出税ヲ聯合國ニ對スル輸出ニ適用スルコトハ此同盟條項ノ精神ニ反スル。故ニ英國モ恐ラク此種ノ特惠税ヲ設クルノ意思ハアルマイ。吾人ノ最モ憂フル所ハ植民地就中印度濠洲ノ輸入税ニ關スル特惠税ノ新設増加テアル。而シテ植民地カ之ヲ新設増加スルノ方法ハ前ニ論シタ如ク母國ニ對スル税率ヲ現在ノ儘トシテ、外國ニ對スル税率ヲ引上クルコトトナルテアラウガ、之ニ由テ我國ノ蒙ムル損害ハ頗フル重大テアル。

我輸出工業品就中印度濠洲等ノ後進國ニ對シテ輸出スルモノハ、歐米品ニ比スレハ廉價ノ低級品テアル。故ニ輸入税ヲ高メラレルトキハ最モ多ク需用ノ減退ヲ生シテ打撃ヲ蒙ムルノミナラス。印度ノ如キハ低級品工業ノ勃興ニ向ヒツツアル故、其輸入税増加ハ保護ノ效果ヲ生シテ我工業品ヲ排斥スルコトトナル。故ニ此方面ニ對スル我輸出ヲ發展セシムル爲メニハ第一ニ其輸入税増加ヲ防クコトヲ必要トスル。是レ我國カ兼テヨリ英國植民地ニ對スル貿易ニ效力ヲ及ホス所ノ通商條約ヲ締結スルノ必要ヲ感シテ居タ所以テアルガ、一面ニ英國カ植民地ニ於テ特惠ヲ有スルコトトナレハ、後ニ論スル如ク英國ハ最早ヤ植民地ノ輸入税増加ヲ抑制スルノ必要ヲ多ク感シナクナル。故ニ植民地ニ於ケル特惠税ノ新設増加ハ植民地ヲシテ妄リニ輸入税増加ヲ行ハシムルノ危險カアル。而シテ植民地カ一般ニ輸入ヲ引上クルト同時ニ母國ノ輸入ヲ其儘トシテ之ニ特惠ヲ與フルノ方法ヲ探ルトキハ、我國ハ此特惠ノ爲メニ如何ナル損害ヲ蒙ムルヤト云フニ、植民地ニ對スル

英國ノ輸出品ト我國ノ夫レトハ凡テ同種同等ノモノテナク、概テ英國品ハ高級品ヲ主トシ、我國ハ低級品ヲ主トスル故、此特惠税ニ由テ直接ニ我國ノ蒙ムル打撃ノ程度ハ、英國ト略ホ同等ナル高級品ヲ輸出スル所ノ他ノ歐米諸國ノ蒙ムル打撃ノ如ク重大ナモノテハナイト云ヘル、併シ乍ラ此戰爭以來我國ハ高級品ヲ生産輸出スルノ好機會ヲ得テ、漸々英國品ト競争スルノ地位ニ進ミツツアル故、英國品カ植民地市場ニ於テ特惠ヲ得ルコトハ、今後ノ我國ノ發展ニ取ツテ大ナル不利ト云ハサルヲ得ナイ。目下英國ニ於テハ自國品ヨリモ一層低級ナル獨逸品ノ輸入ヲ排斥スルト同時ニ此種ノ生産ヲ國內ニ起サントスルノ思想カ強マリ、特ニ戰後ノ勞働問題ヲ解決スル爲メニ此種ノ生産ヲ起スコトヲ必要トスルノ論カ有力トナツテ居ル。此事タル果シテ英國ニ取ツテ有利ナリヤハ疑問テアルガ、英國ニ於テ保護税ヲ設クルト同時ニ其植民地ニ於テモ特惠ヲ得ルコトナレハ、戰後ノ英國ハ戰前ヨリモ一層低級品ノ生産輸出ヲ盛ンニスルコトヲ得ル結果トナリ、從ツテ我國ノ輸出品トノ競争カ一層強マラサルヲ得ナイ。要スルニ植民地カ外國輸入品ニ對シテ一般ニ税率ヲ引上クルコトニ由リ母國ニ特惠ヲ與フルノ方法ヲ探ルトキハ、我國ノ蒙ムル損害ハ甚タ大トナルガ、假リニ殖民地カ外國輸入品ノ税率ヲ現在ノ儘ニ据置キ、母國品ニ對シテ一層税率ヲ引下クルコトニ由リ特惠ヲ與フルノ方法ヲ探ルトシテモ、我國ハ相當ニ大ナル損害ヲ蒙ラサルヲ得ナイ。此場合ノ損害ハ目前ニ打撃ヲ蒙ムル點ヨリモ寧ロ將來ノ發展ヲ抑ヘラレル點ニ於テ重大

ナノテアル。

四 特惠税ト經濟同盟ノ精神

各國カ強固ナル自衛力ヲ備ヘテ獨逸ノ如キ侵略者ニ對シ防衛シ得ルコトハ世界ノ平和ヲ保ツニ必要テアルガ、今回英國ノ企テツツアル帝國主義的政策ハ前ニ述ヘシ如ク防禦的性質ヲ有スルモノテアルカラ世界平和ノ爲メニ有利ノモノト云フヘキテアル。而シテ其政策ノ重要ナル一項目ハ植民地ノ地位ヲ高メ、英帝國ノ維持ニ關シテ共同責任ヲ有セシムルコトヲアルガ、此事タル我國ニ取ツテ有利ノ點モナイテハナイ。從來加奈多濠洲ノ如キハ極メテ露骨無遠慮ナル排日の言動ヲ逞フシテ居タ。是レ一ハ植民地カ母國ノ國際的勢力ヲ過信シタ爲メテモアラウガ、一ハ又植民地カ英帝國ノ外交國防ニ付テ何等容喙ノ權限ヲ與ヘラレス、從ツテ又帝國ノ維持ニ付キ直接ノ責任ヲ感シナカツタ爲メテアル。然ルニ植民地モ母國ト共ニ英帝國ノ外交ニ付テ直接ニ責任ヲ負フコトトナレハ、其ノ對外行動就中同盟關係ヲ有スル我國ニ對スル行動モ從來ノ如ク無責任ナルヲ得サルコトトナル。併シ乍ラ一面ニハ植民地ノ地位カ向上シテ英國ノ外交ニ影響ヲ及ホスニ至レハ、我國ニ不利ヲ及ホスノ危險モ同時ニ存在スル。即チ加奈多濠洲南亞ノ如キハ移民問題ニ付テ我國ト利害相反スルノミナラス、一般ノ英植民地就中印度ノ如キハ我國ノ工業品輸入ヲ防遏シテ國內

ノ低級工業ヲ保護セントスルカ上ニ、財政ノ必要上一般植民地ハ輸入税ヲ増加セントスルノ要求カ強イ。此ノ如キ植民地ノ要求カ英帝國ノ外交ヲ左右スルコトナレハ我國ノ貿易ハ大ナル打撃ヲ受ケネハナラス。從來英國ハ其植民地ニ特惠ヲ有セサルカ又ハ特惠ノ程度カ尙ホ低カリシ爲メ、植民地ノ一般輸入税増加ニ反對シテ居タノテアルガ、今後特惠稅ノ新設増加カ行ハレタナラハ、英國ハ植民地ノ輸入税増加ニ反對スルノ必要ナク、却ツテ其増加ヲ有利トスル場合ヲ生スルカラ、今後植民地ノ輸入税カ甚シク増加セラルルノ危險カアル。國民經濟ノ商工業化セントシツツアル我國ノ發展ニ取ツテハ、支那市場ト同シク印度濠洲等ノ後進國市場カ最重要ノ意義ヲ有スルコトハ論ヲ待タヌ。吾人ハ英國カ帝國主義ヲ探ルコトニ盡ク反對セントスル者テハナイガ、其實行ニ付テハ英國自身ノ利益ヲ考ヘルト同時ニ世界人類ノ利益ヲ考ヘ、聯合國ニ對スル責任ヲ考ヘ、又特別ノ同盟關係ヲ有スル我國ニ對スル責任ヲ考ヘテ慎重ニ之ヲ實行スルコトヲ要求セサルヲ得ナイ。特ニ經濟同盟ニ關スル巴里決議ノ精神ヨリ見レハ、英國ノ帝國主義ノ實行ハ大ナル制限ヲ受ケネハナラヌ義務カアル。

英國ノ如ク廣大ノ領土ヲ有スル國ハ、其領土ヲ閉鎖シテ自給自足ノ經濟ヲ立テルコトカ困難テナイヤウニ見ヘルガ、經濟ノ發達シテ汎ク世界ニ販路ヲ求メサルヲ得サル英國ニ取ツテハ此事カ獨リ甚ダ不利ナルノミナラス、之ヲ實行スルコトモ困難ナル。英國ト異ツテ國土ノ狹小ナル我國

ハ勿論此ノ如キ閉鎖的政策ヲ探ルコトヲ得ナイ。元來英國カ從來ノ自由貿易ヲ廢シテ保護政策ヲ探ラントスルニ至ツタ重大ノ原因ハ、國家ノ獨立ヲ維持スル爲メ、特ニ其國防ヲ安固ナラシムル爲メテアル。國家ノ獨立存在ヲ眼中ニ置カサルカ如キ自由貿易論ノ誤レルト同シク、今日直チニ國防ヲ撤廢セントスル平和主義モ誤リテアツテ、各國ハ相當ニ國防ヲ充實スルコトモ、又場合ニ由テハ保護貿易ヲ行ヒ、特ニ國防充實ノ目的ヲ以テ之ヲ行フコトモ必要テアル。併シ乍ラ各國カ單獨孤立シテ其國防ヲ完全無缺ナラシムルコトハ堪ユヘカラサル不經濟テアツテ、如何ナル富強國ト雖トモ到底其目的ヲ達スルコトヲ得ナイ。今日ノ如ク多數ノ國家カ各自單獨ニ自衛シ發展セントスルトキハ、之カ爲メニ各國民ノ負擔スル犠牲ノ甚大ナルニ係ハラス、常ニ侵略國ヲシテ乘スヘキノ間隙ヲ見出サシムルノ結果トナリ、到底世界ノ平和ヲ保ツテ各國民獨立ノ生存ヲ安固ナラシムルヲ得ナイ。然ルニ利害關係ヲ同フスル多數ノ國カ互ニ同盟シテ自衛ノ途ヲ講ジ、其結果大ナル同盟ト同盟トカ對立スルコトナレハ、互ニ乘スヘキノ間隙ヲ見出スコトカ困難トナツテ、世界ノ平和ハ今日コリモ遙カニ鞏固トナル。世界平和ノ理想ハ到底今日ノ如ク多數國家ノ並立對峙スル狀態ニ在テハ一足飛ヒニ到達セラルヘキモノテナク、之ニ達スルニハ先ツ上述ノ如キ多數國家ノ大同團結ト云ヘル道程ヲ經過スルコトヲ必要トスル。固ヨリ此種ノ同盟ヲ組織スルニハ加盟國カ相互ニ獨立ノ地位ヲ尊重シツツ、成ルヘク互ニ門戸ヲ開放シテ自由ノ交通ヲ爲シ、以テ自給自足

ノ不利ヲ除クコトニ努メテバナラス。若シ同盟國ノ間ニ於テモ互ニ排外閉鎖策ヲ採ルトキハ同盟ハ無意義トナル。苟クモ同盟ヲ組織スルコトヲ以テ世界ノ平和ニ必要ト認メルナラバ、同盟國間ニハ成ルベク自由ニ有無相通シ長短相扶クルノ途ヲ設ケ、假令ヘ其間ノ通商關係ヲ關稅同盟ノ如クスルヲ得ナイトシテモ、少クトモ戰爭前ノ如キ關係ヲ恢復シ、特ニ其間ニ無條件最惠國條款ヲ適用セテバナラス。固ヨリ此種ノ同盟ノ目的ニシテ侵略的デアルトキハ同盟國間ニ屢利害ノ衝突ヲ生シテ其成立ヲ困難ナラシメル。故ニ同盟國間ノ交通ヲ成ルヘク自由ニシテ互ニ相扶クルカ爲メニハ其同盟ノ目的カ平和的防禦的テナクテハナラス。

巴里決議ニ由テ成立セル聯合國間ノ經濟同盟ハ獨リ戰爭中ノミナラス、戰後ニモ繼續スヘキ性質ノモノテアルガ、其目的ハ彼ノ平和的事業トシテ外國ヨリ尊重セラルル一國ノ對外經濟活動ヲモ直接ニ侵略手段ト爲サントスルカ如キ危險ナル獨逸ノ軍國主義ニ對シ共同ニ防衛スルコトデアツテ、決シテ獨逸ヲ侵略蹂躪セントスル爲メニ起ツタモノテナイコトハ、聯合國側ノ戰爭ノ精神ニ照シテ明カナルノミナラス、巴里決議ノ諸條項ニモ明示スル所テアル。故ニ此同盟ハ上述ノ如ク世界ノ平和ヲ維持スル爲メノ大同團結トシテ意義ヲ有スルモノテアル。而シテ其決議中聯合國間ノ戰後ノ通商關係ニ付テ明カニ規定セル主要ノ點ハ獨逸ノ侵略主義ニ對シテ共同ニ防禦的努力ヲ爲スノ外ニハ、聯合國間ニ於テ積極的ニハ天然資源ヲ共通ニ利用シ、同盟ニ加入セル爲メニ販路

ヲ失ヘル國ノ生産ニ對シテ代償的ノ捌ケロヲ保證シ、又相互ノ間ノ交通運輸ノ便ヲ圖ルコトデア
ツテ、各國相互ノ輸入税ニ付テハ規定スル所ガナイ。併、乍ラ聯合各國ガ互ニ輸入ヲ防遏シテ成
ルベク自給自足政策ヲ採ルコトハ、相互ノ交通運輸ノ便ヲ圖ルト云フ決議ヲ無意義ナラシムルノ
ミナラズ、抑モ經濟同盟ヲ組織シタ根本ノ目的ニ反スルモノデアル。固ヨリ戰後ニ於テ各交戰國
ガ其財政ヲ維持スル爲メ或程度マデ輸入税ヲ引上グルノ已ムヲ得ザルコトハ之ヲ認メテバナラヌ
ガ、國防ヲ單獨ニ完備スル爲メ妄リニ自給自足策ヲ行ヒ、之ガ爲メニハ他ノ同盟國ノ重大利益ヲ
害シテ顧ミザルガ如キハ、是レ全然經濟同盟ノ精神ヲ破壞スルモノデアル。故ニ聯合國相互ノ通
商關係ハ財政上已ムヲ得ザル場合及獨立國トシテ其國防上最低限度ノ要求ヲ充タヌニ必要ナル場
合ノ外ハ、成ルベク戰爭前ノ狀態ヲ維持スル方針ノ下ニ之ヲ決定セテハナラヌ。而シテ英國カ汎
ク特惠税制度ヲ新設増加スルコトハ著シク戰爭前ノ通商關係ヲ變更スルモノテアツテ、敵國及中
立國ニ對シ之ヲ適用スルコトハ正當トスルモ、同盟國ニ之カ適用ヲ及ボスコトハ決シテ穩當ト云
フヲ得ナイ。特惠税ノ新設増加ハ一般的ノ輸入税増加ノ如ク戰後ノ財政維持ノ爲メニ必要ト云フ
ヲ得サルモノテアリ、又必シモ直接ニ國防ノ獨立ノ爲メ已ムヲ得サルノ處置ト稱スルヲ得ナイモ
ノテアルカラ、之ヲ同盟國ニ適用スルコトハ特ニ不穩當ト云ハサルヲ得ナイ

前ニモ述ヘシ如ク廣大ノ領土ヲ有スル英國ハ其領土ノ處置ニ付テ世界人類ニ對シ重大ノ責任ヲ有

スルモノテアルガ、從來英國ハ比較的ニ開放主義ヲ採リ、其自治植民地ニ於ケル特惠稅ノ如キモ寧
ロ植民地自身ノ自發的意思ニ基ツクモノテ、母國ヨリ之ヲ強イタモノトハ云ハレナイ。英國力此
ノ如キ開放的態度ヲ採リシコトハ、實ニ世界人類ヲシテ英國ノ大領土占有ヲ是認セシメ、獨逸ノ之
ヲ窺ハントスルコトヲ不正ト認メシメタ所以テアリ、特ニ我國ノ輿論力從來英ニ與シテ獨ヲ排シ
タ所以デアル。吾人ハ此戰爭ニ由テ英國カ新タニ占領シタ廣大ノ獨逸植民地ヲ戰後ニモ繼續領有
スルコトニ異議ヲ唱ヘナイ、危險ナル獨逸ノ軍國主義ノ跋扈ヲ制スルカ爲メニハ飽クマテ之ヲ獨
逸ニ返還スヘカラサルコトヲ主張スル者ナアルガ、併シ乍ラ若シ英國ニシテ從來ノ領土開放ノ公
平ナル態度ヲ廢シテ之ヲ閉鎖獨占セントシ、特ニ侵略者タル獨逸ニ對シテ之ヲ閉鎖スルノミナラ
ス、忠實ナル友國ニ對シテモ之ヲ閉鎖セントスルナラハ、是レ英國カ世界の大領土ヲ占有スル道
德上ノ權威ヲ自ラ破却スルモノテアツテ、單ニ聯合國ニ對シ天然資源ノ共通用ヲ約束シタルノ一
事ヲ以テ其實ヲ免ルルコトハ出來ナイ。戰爭以來英國ニ於テハ隨分極端ナル經濟上ノ帝國主義的
思想カ有力トナツテ居ルヤウテアルガ、此ノ如キ思想カ實現セラレタナラハ、英國ハ世界平和ノ
擁護者タル地位ヲ失フテ獨逸ノ亞流トナルヘク、勿論聯合諸國カ經濟同盟ヲ組織シタ根本精神ヲ
破壞スルノ罪ヲ免レナイ。

五 我國ノ採ルヘキ外交方針

我國カ英國ノ帝國主義ノ實行ニ方リ、上述ノ如ク我國ノ利益ヲ尊重スルコトヲ要求セントスレハ、勿論我國モ聯合國ニ味方シテ起チ、且ツ經濟同盟ニ加入シタル精神ヲ正當ニ理解シ實行セテハナラス。之カ爲メニハ我國モ第一ニ軍國主義ヲ排シテ平和主義ヲ採リ、第二ニ通商貿易ニ關シ國防上已ムヲ得サル場合ヲ除テハ成ルヘク門戸ヲ開放セテハナラス。先ツ我國カ平和主義ヲ採ルノ必要ニ付テ見ルニ、今後大國ヲ相手トスル戰爭ニハ偉大ナル兵力財力及工業能力ノ動員ヲ行フテ持久戰ヲ爲スノ必要ナルハ、歐洲戰爭ノ經驗ニ由テ明カテアルガ、我國ニハ未タ此等ノ能力カ備ハツテ居ナイ。特ニ工業ノ幼稚ナル爲メニ我國防力ハ甚タ貧弱ナモノト云ハチハナラス。我國カ此等ノ能力ヲ高メル爲メニハ平和主義ヲ採ツテ大ニ經濟上ノ發展ヲ圖ラチハナラス。若シ我國カ軍國主義ヲ採ルナラハ各國ハ我國ニ對シテ市場ヲ閉鎖シ、之カ爲メ我國ハ到底經濟上ノ發展ヲ爲スコトヲ得ナイ。又假令ヘ我國カ充分ナル國防力ヲ備フルトシテモ、尙ホ侵略主義ヲ採ツテ異人種異民族ヲ併吞セントスルトキハ國家ノ破滅ヲ來タササルヲ得ナイ。支那ニ對シテ平和主義ヲ採リ、以テ彼我親善ノ根柢ヲ造ルコトノ必要ナルハ前ニ本誌ニ於テ論シタル所テアルガ、此主義ハ獨リ支那ニ對スルノミナラス、我カ一般對外策トシテ必要テアル。近來我國ニ於テハ支那ニ對シテ平和主義ヲ採ルコトヲ必要トスルノ思想ハ相當ニ強クナツタヤウテアルガ、而モ尙ホ多クノ日支親善論ハ甚タ不徹底ナモノテアルノミナラス、南洋獨逸領諸島ヲ占領シテ以來南洋侵略ノ思想カ大

ニ張マリ、以テ徒ラニ米國ヤ英國濠洲等ノ反感ヲ刺撃シツツアル。即チ大陸侵略論又ハ陸軍の侵略論ノ衰フルト同時ニ海軍の侵略論カ跋扈セントスルノ形勢カアル。外國人カ往々我國ヲ以テ獨逸ト共ニ世界ニ殘存セル軍國主義ノ國トシ、特ニ獨逸カ此戰爭ニ於テ大勝利ヲ得サル限リハ大ニ平和主義ニ傾クニ至ルヘシトノ理由ヨリ、我國ヲ以テ今後世界唯一ノ侵略國ナリトシテ反感ヲ懷ク者アルハ、我國ニ於テ上述ノ如ク侵略思想ノ絶ヘサルカ爲メテアル。今日我國カ平和主義ヲ標榜シテ戰爭ノ爲メニ他ヲ願ルノ迫ヲ有セサル歐米諸國ト交渉ヲ進メルナラハ、少クトモ東洋南洋方面ニ於テハ歐米ヲシテ平和主義ノ實行ヲ約束セシムルノ望カ甚タ多イ、今日ハ實ニ我國カ方向轉換ヲ行フテ平和主義ヲ確立スルニ付キ千載一遇ノ好機會テアル。尙ホ不正侵略者ノ絶滅ノ保證セラレサル今日ノ世界ニ於テ平和主義ヲ確定セントスレハ、國力ノ許ルス限り充分ノ國防力ヲ備フルヲ必要トスル。我國カ平和主義ヲ探ルヘシト云フコトハ國防ヲ怠ツテ可ナリト云フコトテナイノハ論ヲ待タヌガ、我國防ノ充實上今後最も必要トスル所ハ經濟ノ發展デアル我國カ今日平和主義ヲ確立スルコトハ對外關係ヲ有利ニ解決スル爲メニ必要テアルガ、之ト同時ニ内政上最も重要ナル憲政問題ヲ正當ニ解決スル爲メニハ寧ロ一層多ク其ノ必要ヲ感スル。此事ハ既ニ對支政策ヲ論スルニ方ツテ一般的ニ述ヘタ所テアルガ、茲ニ重テ一言シテ見タイ。最近ノ總選舉ハ超然內閣ヲ認ムヘキヤ、政黨內閣ナラサルヘカラサルヤノ問題ニ關シテ議會ノ解散セ

ラレタ爲メニ行ハレタモノテアリ、從ツテ總選舉ニ際シ輿論ハ此憲政問題ニ集中セラレタ姿テアツタ。當時民本主義ヲ確立スル爲メニ政黨政治ノ必要ヲ叫ヘル論者ノ中ニハ對支政策上侵略獨占主義ニ歸着セサルヲ得サル高壓的干涉策ヲ主張シ、或ハ南洋ニ對スル軍國的發展ヲ高唱スル論者ノ少ナカラサルコトヲ發見シタ。然ルニ我國カ對外侵略ノ國是ヲ持スル限りハ、政治ノ根底カ軍國の官僚のトナリ、假令ヘ形式上ニ政黨政治ヲ探ツテ見テモ、實際ニハ個人ノ自由自主ヲ尊重スルヨリモ國權ニ由ル組織の統一的作用カ政治ノ中心ヲ爲シ、又政治家ノ中心モ實際ニハ軍閥官僚ノ圈外ニ出テ難キハ爭ハレナイ。軍國主義ノ獨逸カ文明ノ各方面ニ於テ列國ヲ凌駕スル程ノ進歩ヲ爲シ乍ラ、獨リ其政治カ官僚的テアツテ民本主義ノ行ハレナイト云フコトハ決シテ偶然テナク又獨逸及我國ト相並ンテ世界ノ軍國主義ノ標本トセラレタ露國カ今回ノ革命ニ由リ民主的トナリツツアルヲ見テ、世人カ同國ニ於ケル軍國主義ノ衰亡ヲ豫言スルコトモ決シテ不當テナイ。我國ニ於テ眞ニ民本主義ヲ確立セントスルナラハ、須ラク先ツ國民カ軍國主義ノ思想ヲ抛タネハナラヌ。曾テ分裂衰弱セル獨逸カ新國民トシテ世界ノ舞臺ニ立ツニ至ツタ直接ノ原因バ、先ツ壤國ヲ敗テ之ヲ聯邦外ニ驅逐シ、次テ佛國ヲ敗テ帝國ヲ建設シタコトテアル爲メニ、獨逸人カ今尙ホ軍國主義ニ對シ過大ノ信用ヲ置テ、遂ニ今日ノ如ク世界ヲ敵トスルノ不幸ニ陷ツタ。我國カ東洋ノ中心トナリ、世界ノ強國トナツタノモ、直接ニハ日清日露ノ兩戰役ノ爲メテアルカラ、實際我國民ハ

軍國主義ノ崇拜者テアル。然ルニ此思想ノ強キ間ハ我國ニ民本主義ヲ確立スルコトハ不能テアル。是レ予輩カ總選舉ニ於ケル根本問題ハ平和主義ヲ採ルヘキヤ否ヤテアツテ、政黨政治ノ可否ノ如キハ寧ロ第二位ノ形式論ニ過キサルコトヲ主張シタ所以テアル。

次ニ我國カ歐米ヲシテ我商品ニ對シ成ルヘク門戸ヲ開放セシメントスレハ、我國自身モ亦排外的保護ニ熱中シテハナラヌ。此戰爭ニ由テ我國ハ工業ノ幼稚ナルコトヲ痛切ニ感シ、之カ爲メ世人ハ輸入税増加ニ由テ大ニ産業ヲ保護スヘシトノ思想ヲ強メタヤウテアルガ、苟クモ我國自カラ保護稅主義ヲ主張スル以上ハ他國ニ對シテ開放主義ヲ要求スルコトカ困難テアル。加之今後我國ノ工業ヲ發達セシムル爲メニ國家ノ保護獎勵ノ必要ナルハ拒ムヘカラサルモ、其保護獎勵策トシテ保護稅ノ方法ニ重キヲ置クコトハ大體ニ於テ不利テアル。今後我國ニ發達セシムルノ必要ヲ感スル工業ノ重ナルモノハ製鐵業機械製作業等ノ金屬工業及染料藥品等ヲ生産スル所ノ化學工業テアルガ、此種ノ工業ハ概ネ他ノ加工精製事業ニ必要トスル所ノ材料ヲ生産スルモノテアツテ、金屬ヤ石炭ヤ鹽ノ如キ天然資源ノ豊富ニ存在スルコトヲ其發達ノ重要條件トスル。然ルニ我國ニハ不幸ニシテ此等ノ天然資源カ貧弱テアル。故ニ經濟上又ハ國防上已ムヲ得サル部分ニ付テハ國內生産ヲ維持スルノ方針ヲ採ルコトヲ要シ、又此方針ヲ實行スルコトハ必シモ不能テナイトシテモ、更ニ此種ノ生産ヲ發達セシメテ大ニ之ヲ世界ニ輸出スルノ地位ニ達スルコトハ到底望マレナイ。我

國ノ長所ハ此種ノ生産財ヲ消費スルコトニ由テ加工業ヲ營ムコトテアルカラ、之ニ輸入税ヲ課シテ高價ナラシメ、以テ加工事業ヲ不利ニ陷ラシムルハ、是レ我國ノ長所ヲ沒却スルモノテアル。故ニ今後此種ノ事業ヲ國內ニ發達セシムルコトトシテモ、其方法トシテハ成ルヘク其價格ヲ高カラシムル所ノ保護税ヲ避ケ、發明研究ヲ獎勵シ、學校及模範工場ニ由テ技師職工ヲ養成シ、金融機關ヲ完備シ、又國家市町村等ノ此種貨物ノ需用ハ成ルヘク國內生産ヲ使用シ、若クハ事業ノ負擔ニ歸スヘキ租税公課ヲ減免スルカ如キ方法ヲ採ラネハナラス。

世間或ハ交戰諸國カ急速ニ經濟ノ恢復ヲ圖ルノ必要ニ迫ラレテ、戰後大ニだんびんぐノ實行ニ努ムヘキカ故ニ、我國ハ之ヲ防禦スル爲メニ豫シメ保護税ヲ増加シテ置カ子ハナラスト論スル者カアル。併シ乍ラ交戰諸國ノ物價ハ戰後ニ於テ容易ニ下落シ得サル事情カアリ、特ニ資本ノ不足ヤ租税ノ増加ノ爲メニ有力ナルだんびんぐヲ行フコトカ困難テアル。成ルホド交戰諸國ノ工業ハ大規模ノ軍需品供給又ハ工業動員ノ實行ニ由テ其規模ヲ大ニシ、統一集中ノ組織ヲ採ツタ場合モ少クナイヤウテアルガ、併シだんびんぐヲ有力ニ行フ爲メニハ獨リ生産業カ大規模トナリ、特ニ合同組織ヲ採ツテ國內市場ノ價格ヲ支配スルノ力ヲ得ルコトヲ要スルノミナラス、國內ノ購買力甚タ大ナルヨリ其生産物ノ主ナル部分ヲ國內ニ於テ特ニ有利ニ販賣シテ充分ノ利益ヲ擧ゲ得ルコトヲ必要トスル。然ルニ戰後ニ於ケル交戰國ノ國內市場ハ必シモ合同ヲシテ特ニ大ナル利益ヲ得セ

シムルホド多大ノ購買力ヲ有スルトハ考ヘラレス、寧ロ其購買力ハ一般ニ減退スルモノト見ルコトヲ正當トスル。故ニ戰後ノ先進國ノだんびんぐヲ恐レテ之ニ備フル爲メ保護稅ヲ増加スルハ當ヲ得ナイ。固ヨリ戰後ニだんびんぐノ絶無ナルコトヲ保證スルヲ得ナイガ、大體だんびんぐハ規則正シク繼續シテ行フコトノ困難ナモノデアルカラ、之ヲ防クカ爲メニ畫一不動ナルコトヲ有利トスル所ノ輸入稅ヲ以アスルハ甚タ不得策テアル。戰後最モ盛シニだんびんぐヲ行フヘントシテ恐レラレタ國ハ獨逸テアル。然ルニ戰爭カ意外ニ永ク繼續シタ爲メニ獨逸モ最早ヤ有力ナだんびんぐヲ行フノカラ失ヘリト見テ誤ラナイト信スルガ、獨逸ノだんびんぐニ對シテハ經濟同盟ニ由テ之ヲ備フルノ途モアルカラ、之カ爲メニ保護稅ヲ豫シメ高クスルノ必要ハナイ。

世間ニハ往々經濟同盟ノ戰後ニ關スル約束就中聯合國間ニ天然資源ヲ相互ニ利用セシムル約束ノ如キモ其ノ實行ハ甚タ疑ハシキ故、眞面目ニ聯合國ヲ援助スルハ愚ナリト云フカ如キ思想ヲ懷ク者カアル。若シ論者ノ云フカ如ク我國ノ勢力カ明カニ條約セル個條ノ實行ヲ相手國ニ守ラシムルコトスラ困難ナホドニ微弱ナモノテアルトスレハ、特惠稅ノ如ク條約ノ明文ヲ以テ制限ヲ加ヘサル事項ニ付キ、同盟ノ精神ヨリ解釋シテ相手國ノ行動ニ制限ヲ加ヘントスルコトハ勿論徒勞テアルト云ハチハナラス。然ルニ同シ論者ニシテ往々同時ニ我國カ歐米諸強國ニ反對シテ東洋南洋方面ヲ侵略シ、彼等ヲ排シテ此方面ノ利益ヲ獨占シ得ヘク、特ニ戰後ニ於テモ其獲物ヲ確實ニ保持ス

ルノ見込アル程ニ我國ヲ有力ナリト考ヘル者モ少ナクナイヤウテアル。一國ノ實力ハ使ヒ方ニ由テ強弱ノ差ヲ生スル故、論者ノ主張ヲ以テ一概ニ矛盾ト云フヲ得ナイガ、併シ予輩ハ恰モ論者ト正反對ノ考ヲ有スル者テアル。即チ我國ハ不正ノ侵略者獨占者トシテハ甚タ怯懦無勢力タラサルヲ得ナイガ、正義ノ主張者トシ平和ノ擁護者トシテハ有力テアリ、特ニ先進國カ戰爭ノ爲メ他ヲ顧ルノ遑ナキ今日ニ於テ甚タ有力テアリ、又今日此正當ノ目的ノ爲メニ努力シテ得タル結果ハ戰後マテモ之ヲ保持スルコトカ出來ルト考ヘルノテアル。我國ハ獨逸ノ軍國主義ニ反抗シテ自由ト平和ノ爲メニ戰ヒツツアル友國ニ對シテハ充分ノ援助ヲ與フル程ニ大膽テナクテハオラスト同時ニ、友國自身カ戰時ノ勢ニ激セラレテ獨逸ノ聲ニ倣フカ如キ危險ニ對シテモ大膽ナル反抗牽制ヲ行フ程ニ男性的テナクテハナラス。